

## 外鼻 (nasal envelope) の整鼻術

### 室 孝明

Takaaki Muro

ビスポーククリニック

代表的な整鼻術には鷺鼻や広鼻、斜鼻など骨や軟骨 framework を調整することで外鼻形態の改善を図る。しかし外鼻 (nasal envelope) の厚い東洋人においては framework が外表の輪郭に反映されず希望と異なる結果を招くことがあり、また結果の予測が非常に難しいことも悩ましい問題となっている。

日常遭遇しやすく治療に難渋する具体的なケースは以下の通りである。

- a. 鼻尖縮小術後の pollybeak 変形。
- b. 鼻尖縮小術の効果がでないまたはむしろ鼻尖が大きくなる。
- c. Framework に沿った鼻尖の profile が得られない。
- d. 鼻柱垂下 (皮膚軟部組織の余剰による)。
- e. 厚い鼻翼皮膚の鼻翼縮小術
- f. 鼻翼縦径が長い、などである。

Nasal envelope の形態コントロールは余剰組織の切除が主体であるが、鼻尖部と鼻翼部では良好な結果を出すための工夫の仕方が異なる。すなわち鼻尖部はボリュームだけでなく framework に近い新たな形状を皮膚に癖付けする必要がある、鼻翼部では鼻尖部と鼻翼、鼻孔と鼻翼厚との均衡を考慮しつつ小さく目立たなくする (またはそのように見せる) 必要がある。今回は nasal envelope が厚く大きな鼻を目立たなく見せる整鼻術の工夫について報告する。